

群馬県議会 リベラル群馬

街頭演説1200日  
県政の革命児!

県議会だより

# 後藤かつみ

vol.24

発行 リベラル群馬 後藤かつみ事務所  
住所 高崎市八幡町800-24  
TEL&FAX 027-343-1393  
e-mail ccrgoto@af.wakwak.com  
<http://www.ccrgoto.com/>



本会議最終日で討論する後藤かつみ

# H25年度予算が成立 雇用・エネルギー施策で前進も課題の残る内容

雇用政策・新エネルギー分野などで評価できる内容

H25年度予算案が議会に示されました。  
リベラル群馬が常に提言し続けてきた、雇用政策、新エネルギー分野への積極投資については一定評価できる内容となっています。

雇用政策については、景気低迷のしわ寄せを受けている、若年層・障害者に対しては踏み込んだ施策が盛り込まれています。  
新エネルギー分野では、木材生産の過程で発生し、

処理に困っていた厄介者のバーク(樹皮)を燃料にした木質バイオマス発電設備を新設するなど、林業振興にも繋がる施策も盛り込まれています。  
また、群馬の隠れた歴史資源を発掘・発信する「東国文化係」や、相談が急増している発達障害に対応する「発達支援係」など、新たな政策課題に組織強化で対応する点も評価できます。

「道路偏重」から「公共交通」への転換に課題残る

群馬県は今年度「ぐんままちづくりビジョン」を

策定し、道路偏重の政策が都市機能の拡散と公共交通の衰退を招いた反省と、高齢化社会の到来を踏まえ、公共交通を軸としたまちづくりへの政策転換を打ち出しました。  
しかし、H25年度予算では、県内道路網整備に270億円と巨額の予算を計上する一方で、公共交通活性化策は目を見張るものはなく寂しい内容と言わざるを得ません。

財政健全化も課題残る

国の大型景気対策により、本県にも全額国負担の公共事業費が424億円も配分されています。これは本県の年間公共事業費の約半分にあたる規模であり、まさに「大盤振る舞い」と言えるものです。  
このような時には、県負担の公共事業を抑制して借金を減らす財政運営も可能です。しかし、大沢知事は「群馬県産業の下支え」として、新年度予算では建設債を前年比100億円も増発しており、財政健全化の点では課題を残す内容と言えます。

## リベラル群馬・後藤が提言する 施策の予算反映

### 1 経済対策

- 家庭用太陽光パネル設置補助金を継続(6億円)
- 県有施設の屋根等に太陽光パネル設置を推進(1億円)
- 木質バイオマス利用施設を2施設整備(2.5億円)

### 2 雇用対策

- 「ジョブカフェぐんま」を核に、県内企業へのUターン・Iターン就職の促進事業を開始(1.2億円)
- 障害者雇用支援を本格化。「障害者就労サポートセンター」を新設。県機関も障害者を5名直接雇用し、率先垂範で取り組む。(7千万円)

### 3 安心安全な暮らし

「発達障害係」新設し、県全体での相談体制の構築を市町村と協力して進める。

### 4 公共交通の再生強化

上信電鉄7駅のトイレ改修・案内看板設置等(1千万円)

### 5 組織強化による施策推進

○日本で4番目に多い「古墳」等、群馬の歴史資源を発信する「東国文化係」を新設。(八幡地区では昨年イベントを開催)



歴史的発見!金井東裏遺跡から発掘された、よろいを着装した人骨を調査



地域資源をエネルギーに!秩父市の木質バイオマス事業を調査

# 議会改革 議会活動の「ガラス張り」へ大きく前進



議会改革を議論する「議会基本条例推進委員会」で、三重県議会の先進事例を調査

## 「3つのガラス張り」最後の課題

後藤が「3つのガラス張り」として掲げる議会改革課題として、「カネII 政務調査費」「日常活動II 口利き」「議会活動」の透明化を訴えてきました。3つのうち、「政務調査費」「口利き」については100%透明化が既に実現してきたところですが、残る課題が「議会活動」の透明化でした。

群馬県議会は、本会議はテレビ中継していますが、議案等を実質審議する委員会は議事録すら公開されておらず、議員が議会でのような発言をしているのかという肝心の部分が不透明なままです。

全国的には20以上の県で委員会議事録を公開しており、先進県ではインターネットでライブ中継をしている所もあります。

### 県会委議事録

## 発言者名「要約版」公表へ 自民一転受け入れ

県議会の情報公開推進に向け、県議会でつくる議会基本条例推進委員会(委員長・中沢丈二県議)が議論している委員会の議事録公開のあり方をめぐり、これまで発言者の氏名の公表に消極姿勢だった最大党派の自民党が、ホームページ(H.P)で現在公開されている「要約版」に限り、公表を容認する方針を決めたことが4日わかった。12日に開かれる推進委員会会で表明する。他会派の

了解が得られれば、議会運営委員会に諮り、早ければ2月県議会から発信者の氏名が公開される。委員会の議事録公開をめぐっては、第2会派のリベラル群馬などが「県議が委員会でのような発言をしたかは、県民が政策判断の過程を知る上で重要」と指摘し、発言者の氏名や、要約版より分量の多い「詳細版」の公開を強く求めている。一方、自民党はこれまで、

氏名を公表する場合には、発言の機会均等の観点などから「発言時間の制限が必要」などと主張し、公表に難色を示していた。各会派の意見の隔たりは大きかったが、自民党は「改革の必要性では一致している」と(県議)と態度を軟化させ、すでに公開されている要約版に限って氏名の公表を受け入れる方針に転じた。

2月5日 読売新聞より抜粋

## 5年越しの議論の末、前進をはかる

リベラル群馬は会派結成以来、議会改革の柱として委員会議事録の公開を主張してきましたが、自民党の強い抵抗で進まない状況が続いてきました。

しかし、今年度に入り、議会改革の方針を定める「議会基本条例」の制定を機に、後藤は「条例の名に恥じない議会改革を進めていくべき」と攻勢を強め、マスコミも強い関心を持つようになりました。以来、議会改革を議論する「議会基本条例推進委員会」において、検討課題と

して本格的な議論がスタート。先進県の視察などを通じて、当初は一貫して難色を示していた自民党も徐々に透明化に理解を示し、議事録を要約した内容を議員名入りで県のホームページにて公開することでも合意しました。

インターネットやライブ中継や議事録全文を公開する先進事例と比べると依然十分ではありませんが、最大会派が徹底して難色を示してきた現実を踏まえると大きな改革の前進と評価できます。

## チェック機能強化に向け、次年度から「3会期制」へ

県議会は、これまで5月、9月、12月、2月と年4回の定例議会を行ってきましたが、次年度から、このうち9月と12月議会を一緒にし、年3回とすることを決定しました。

これにより、閉会していた11月の時期に前年度決算の審査を丁寧に行うことで議会のチェック機能を高めることを目指します。

# 地域活動三三報告 六郷地区



ハナミズキ通り大和屋北側



ファッションセンターしまむら前

筑縄町の2町内会からの陳情を受け、速やかに県警に検討を要請。地元・山田行雄市議と協力しながら現地調査とその後の折衝を経て、  
①ハナミズキ通り大和屋北側、  
②ファッションセンターしまむら前、  
の2か所の信号機が新設されました。